

第5回高松中心市街地プロムナード化検討会議 議事概要

1. 会議の日時及び場所

- (1) 会議名 第5回高松中心市街地プロムナード化検討会議
- (2) 日 時 令和7年5月27日(火) 午後2時から午後3時40分
- (3) 場 所 香川県庁本館21階特別会議室

2. 出席委員及びオブザーバーの氏名

中村 英夫、西成 典久、佐藤 清志(代理：藤岡 亜希子)、北條 裕介、漆原 康富、川崎 武文、堀川 満弘、栗原 盾、古川 康造、河田 悦夫、齋藤 文克、鈴木 健彦(オブザーバー)、井村 久行、荻野 宏之、坂野 花菜子、谷田 和久(代理：高島 史典)、次田 吉治、三宅 秀造(代理：岡田 光信)、西尾 徹、生田 幸治、塩田 広宣

3. 議事概要

(1) 委員について

- ・ 人事異動等によって委員の交代を行った。
- ・ 設置要綱を変更し、委員1名+オブザーバー1名が新たに就任した。
 - 委員：(一社)香川県トラック協会 専務理事 齋藤 文克氏
 - オブザーバー：(株)高松三越 代表取締役社長兼取締役営業統括部長 兼 (株)松山三越 代表取締役社長 鈴木 健彦氏

(2) 高松中心市街地のプロムナード化について

事務局から資料2、資料3について説明した後、議論を行った。

【香川県旅客船協会 堀川委員】

県立アリーナが開館してサンポートがにぎわっている。一方で、玉藻交差点では歩行者の横断によって車の渋滞が発生していると感じる。フェリー乗り場から商店街まで屋根付きのコリドーを設置すれば、歩行者を誘導でき回遊性も高まるし、車の通行もスムーズになるのではないかと。JR高松駅からフェリー乗り場まではコリドーがあるので歩行者の誘導ができており、県立アリーナ、サンポート、中央商店街の間についてもコリドーがあれば、雨の日も含めて誘導がしやすいと考える。

【高松中央商店街振興組合連合会 古川委員】

県立アリーナのイベントによって商店街の通行量が大きく増加しており、感謝している。中心市街地の発展は、サンポートだけではなく、中心部、商店街との連携が重要である。

歩行者動線について、アリーナ開館後の観光客の方々は中央通りを通行して商店街に行っている数が多いと感じる。新しいルートも必要であるが、中央通りの歩道は路面に凹凸があるので荷物を引いても音がしないように、またライトアップするなどして、誘導することを検討してもらいたい。

受け入れ体制については、商店街内にベンチ等の休憩施設が不足している問題があり、商店街は基本的に市道であるが、休憩施設を民間が設置するにはハードルがあるので、官民連携で乗り越える必要がある。

エリアマネジメントについて、サンポートや商店街のイベントは多く開催されているが、情報がまとまっておらず分かりにくいとの声が市民からも寄せられており、そろそろ仕組みが必要と考えている。

丸亀町もエリアマネジメントを当初から目指しており、単に行政任せではなくて、民間も恩恵をこうむる人たちがそれなりの負担金を出すような仕組みがこれから必要なのではないかと考えている。

【事務局】

屋根付きコリドーについて、動線の明確化と雨除けが趣旨であると思うが、引き続き関係機関と協議し、検討していきたいと考えている。

中央通りについて、広い歩道が整備されているが、歩いて楽しい空間ではないと認識している。商店街に行くきっかけとなるような、歩いて楽しい歩行空間の整備や、商店街での休憩施設については、関係機関と協議していきたいと考えている。

商店街についてはエリアマネジメントができている地域と認識している。サンポートはこれからエリアマネジメントを進めていく必要があり、まずは勉強会として始めていきたいと考えている。サンポートでエリアマネジメントができ始めると、商店街との連携もしやすくなると考えている。

【高松市都市整備局 三宅委員（代理 岡田 光信）】

サンポートの整備をはじめとする効果を中心市街地に広げていくことが重要であり、回遊性や滞在性の向上、にぎわいづくりの施策に取り組む必要があると認識している。

歩行空間については新たな動線とともに、既存動線の強化も重要と感じている。

社会実験の内容は、これから関係機関と十分に協議しながら詰めていくことと思うが、その内容は検討会議の委員の皆様に事前にお知らせされるようになるのか伺いたい。

【事務局】

社会実験は、できれば今年度中に形にしていきたいと考えており、その結果を次回の検討会議において報告することを考えている。また、社会実験に向けては、関係機関と十分に協議をして進めていきたい。

【高松タクシー協会 川崎委員】

県立アリーナの開館によって、タクシーは恩恵を受けており感謝している。県立アリーナでのイベント終了時には、タクシー乗り場で混雑が発生した。イベント後に利用される方だけでなく、JRを利用される方にも駅前のタクシーを供給できるよう対応していきたいと考えている。

サザンオールスターズのライブ時は県外からの客が多かった。自家用車の利用が多いと考えられる県内からの来客が多いイベント時についても交通量調査が必要ではないかと考えている。

菊池寛通り交差点は、歩行者の横断が多い時間帯などは車が全く右左折できない状況である。一刻も早く歩車分離式信号にさせていただきたく、歩行者のスクランブル方式化も含めて、交通への影響を社会実験でしっかり確かめてほしい。

【香川大学 西成委員】

県立アリーナの開館は、サンポートに人流が増え、大きな混乱もなく、魅力を高めている。

ビジョンの中に健康というキーワードを入れている点が良いと感じており、医療福祉分野からは暮らしているだけで健康になるようなまちづくりを目指してほしいといった要請がある。ビジョンについては特に異議はなく、より医療健康分野の知見も生かしながら、歩いて楽しいまちづくりについて、サンポートを中心に県内様々なところに広げていくことが、今後必要と考える。

サンポートから商店街への歩行者動線については、魅力的な空間デザインや色々なルート案が考えられるが、様々な学会等と連携しながら、コンペ形式でより魅力的な案を選べる体制が取れたらより良いと考えている。

【事務局】

ビジョンについて、まだ十分でない部分があるかみしれず、今後必要があれば修正していく。

サンポートから商店街への歩行者動線のルート案については、色々な案をいただきながら考えていきたい。

【四国旅客鉄道株式会社 北條委員】

県立アリーナの開館、瀬戸内国際芸術祭の開催、インバウンドの増加、大学の開学など、サンポートのにぎわいが非常に増えて良かったと感じている。

中央商店街との滞在性や回遊性が増えるような取組みをぜひ進めていただき、逆に商店街から駅に迷わず来れるような案内等も工夫していただきたい。

ビジョンについて、今回設定している環境、健康、交通、経済等の面からサステナブルでにぎわいのあるまちづくりを目指すとのことで、実現に向け色々な整備をしていただきたい。

エリアマネジメントについては、サンポートで色々な関係者と情報交換しているが、まだ一緒に動けるところまで至っていないため、行政に旗振りをしていただき、イベントや空間づくりの推進に、一緒になって取り組んでいきたいと考えている。

【高松中央商店街振興組合連合会 古川委員】

案内サインについて、現状、中心街を示すサインが色々ばらばらなので、外から来る人を意識したシンプルな案内をしていただきたい。

中央通りについては、既存ルートとして歩いている数が一番多いと思うが、現状は全く無機質な道路と認識しており、市のメイン通りとなるような、例えば瀬戸芸の作品や夜間のライトアップ等で、今までになかったような日本一の幹線道路の歩道を目指してリニュ

ーアルを検討していただきたい。

【国土交通省四国運輸局交通政策部 坂野委員】

歩きたくなるルートというのは、昼だと魅力が伝わってきやすいが、夜だと暗くて狭い道は歩きたくないなど、魅力や誘導の仕方は昼と夜で違ってくると考えている。

まちバスについては、ことでんや現行の路線バスで拾いにくい需要や、他の公共交通機関とのすみ分けを考えた検討が必要ではないか。また、バスの案内を工夫することにも必要と考える。バスの利用は浸透するのに時間がかかると考えられるので効果検証に留意が必要。それらを、社会実験に向けて検討いただきたい。

【事務局】

中央通りでも暗いところがあり、ご指摘の視点を持って検討を進めていきたい。

バスについては、現時点でも商店街を通過するバスがあるが、今回は利用しやすい短距離、高頻度のバスで社会実験したいと考えている。また、バス利用の浸透に時間がかかることは認識しており、事前の情報発信や案内についても留意して進めていきたい。

【香川県トラック協会 齋藤委員】

番町交差点、中新町交差点は、交通事故防止及び渋滞緩和の観点から歩行者の地下横断方式が取られていると認識している。この2交差点においては、環状道路の整備後に交通量が減少すれば平面化も良いとは思いますが、現時点の交通量では時期尚早と考えている。菊池寛通り交差点は調査の結果、スクランブル方式で処理ができるとのことであるので、それで良いと思う。

【事務局】

自動車の交通にも配慮しながらプロムナード化の検討を行うことが重要と考えている。香川県の場合、地方都市の類に漏れず自動車がないと移動がしづらい方もいるので、十分考慮した上で検討していきたい。

番町交差点、中新町交差点の平面化について、現時点で交通量がかなり多い交差点になっており歩車分離式信号での交通処理は難しいと考えているが、それ以外の方法についても今後慎重に検討していきたいと考えている。

【高松市創造都市推進局 次田委員】

観光の観点から、昼と夜の時間帯の違いによる人流について分析を行っているか、夜間観光にもつながるため、夜はどういうところに人が流れている可能性があるか伺いたい。

【事務局】

現時点では時間帯毎の人流の分析を行っていないが、ご要望があれば、夜間の人流に関しても分析してみたいと思う。

【国土交通省四国地方整備局建政部 井村委員】

人流分析結果について、属性に応じた大きな傾向の差は見られなかったとのことであるが、通勤等のボリュームが大きい中で観光客などのデータが埋もれてしまっている可能性もある。初めてまちに来る人のニーズをどう拾い上げるかが重要と考えている。

ビジョンの方向性として、案内でつなぐという部分について、サンポートに勤務しているが、初めて来る人にフェリー乗り場の場所などを聞かれることが結構ある。案内サインは多くあるが十分に伝わっていないと感じており、既存のサインも見直し、例えばＪＲの駅改札を出て、港まで一貫しているようなシームレスな視点が大事と考えている。

また、サンポートではすぐに水面が見えにくい高松港が見えにくい中で、例えば玉藻公園の石垣が見えて目印になるなど、まちの中を歩いた時に案内サインだけでなく直感的に位置関係がわかりやすいといった視点も必要になってくると考えている。

【事務局】

ＪＲ高松駅周辺の案内サインについては、初めてまちに来た人がわかるような案内といった観点で見直していきたいと考えている。港への案内に関しても、十分調整してわかりやすいような案内を心がけていきたいと考えている。

直感的に位置関係がわかるような取り組みについても、考えていきたい。

高松市とサインに関しても検討を進めており、いただいたご意見も踏まえて整備できればと考えている。

【シンボルタワー開発株式会社 栗原委員】

ビジョンについて、まさにこのとおりだと感じている。そのなかで、ビジョンを実現するための方策のうち、エリアマネジメントについては色々な捉え方があると認識している。今後勉強会を始めていくとのことなので、エリアマネジメント自体のビジョン、どこを目指すのか、どういったところまで進めていくのかというところも検討・議論していただきたい。

【事務局】

エリアマネジメントに関して、香川県・高松市を含めて勉強会をして、まずは何か小さいことから始めていくという体制で臨んでいきたいと考えている。シンボルタワー開発さんやＪＲ四国さんには、一緒にやっていただきたいので、ご協力をお願いしたい。

【株式会社高松三越 鈴木オブザーバー】

動線の整備だけでなく商店街等に来る必然性を作る必要があり、そのためには誰に対するものかを検討する必要がある。

ビジョンの中で、誰のためのまちを目指すのかということがもっと出てくると、民間はそのまちが目指す人たちに向けて商売で消費をつくることができると思う。

つなぐというのは手段だと思うので、一言で、このビジョンをみんなが合言葉のように言える言葉が出てくると、行政も民間もそれを目指して何かできるのではないかな。

【日本大学 中村委員長】

ターゲットを念頭に置くことは重要であると考えている。一見さん、インバウンド、一生に何度かという方々よりは、市民や近隣のリピーター的な方々に向けた空間づくりやコトづくりということかと個人的には思う。沿道が魅力的であったり、イベントであったり、それがまた、まちの方と連動・連携することで、さらに相乗効果が出てくると思う。

空間づくりに関して、全国では柔軟に対応している事例もあり、様々な工夫があるので、そのような事例も勉強していきながら進めてほしい。

ビジョンの中に、どういった方に対してという部分を追加することを、プロムナード化の定義のところかと思うが、次回の検討会議での議題として検討いただき、現時点のビジョンについては大きな意見はなかったため、本日提示のものから「案」を削除し、これを検討会議で取りまとめたものとさせていただきたい。

事務局は、皆様方からの意見を踏まえながら、また連携をしながら、これからの検討を進めていただければと思う。

【事務局】

貴重なご意見をいただき、本日の内容を踏まえ今後の検討を進めてまいりたい。

以上